

ふくしま 再生 短信

よみがえるオオカミ 飯館村山津見神社 復元天井絵展開幕



山津見神社復元天井絵展の開幕を告げる福島県立美術館（上の写真）

❖ 村民を待つ天井絵 ❖

2016年5月28日、福島県立美術館で「よみがえるオオカミー飯館村山津見神社・復元天井絵」展が開幕。福島県立美術館主催、山津見神社／和歌山大学観光学部・国際観光学研究センター／東京藝術大学／認定NPO法人ふくしま再生の会共催、飯館村後援により拝殿設置前の天井絵公開が実現した。9時30分、福島県立美術



館館長・早川博明さん、和歌山大学観光学部教授・加藤久美さんの挨拶の後共催者らによるテープカットが行われた（左の写真：右端は再生の会事務局長・二宮克彦さん）。3年前に焼失した237枚に新た

に5枚を加えた242枚のオオカミ天井絵が、和歌山大の加藤久美さんとサイモン・ワーンさん（右の写真の右側の2人、その左は学芸員・増淵鏡子さん）によるデジタル調査記録をもとに東京藝



術大学准教授・荒井経さん（右の写真）のチームの手により蘇った。加藤さん「宮司夫人の遺志は重い、天井絵は村民を待つ」、ワーンさん「歴史は共同し行動して創るもの」、荒井さん「天井絵の修復は原発事故を含め歴史を刻む」。



飯館村佐須地区の菅野芳子さんは「これまで気づかなかった」新しい発見の驚きを語った。山津見神社氏子総代・佐藤公一さんは「オオカミの恵みとご利益の姿を村外で見られる」意義が大きいと言う。実際に筆をとった藝大院生の谷津有紀さんは「創作行為としての復元を100年後に今の戒めとしても伝えたい」と言う。副村長の門馬伸市さんは「村の子ども達をスクールバスで連れてきたい、心の復興に文化財の力が大きい、展示を復興の起爆剤に」と期待を述べた。会期は7月3日迄。（文責&撮影・若林一平）



福島県立美術館

1984年7月開館。所在地：〒960-8003
福島市森合字西養山1番地 福島交通

飯坂線「美術館図書館前駅」下車（徒歩2分）Tel.024-531-5511 入館料：一般・大学生270円、高校生以下無料。館長は早川博明さん（右の写真：左、そ

の右は山津見神社氏子総代・菅野永徳さん）。早川さん「古いものから新しい文化を創造した」。